

# 併せて諸兄の同情に訴ふ

友愛會東京鐵工組合大崎支部  
園池製作所従業員一同

## 一、事件の發端

吾人は濫りに職を好む者に非ず、然れども賃銀奴隷の状態に屈從することを欲せず。吾人は生産者としての品位を保ち、人間の生活を保持せんと欲す。吾人が今園池鐵工所に對する要求條項の如き、従つて徒らに平地に波瀾を起さんとする底のものにあらずして、眞に獨立の生産者としての最低の要求たるに過ぎざるなり。吾人は斯くして隱忍に十日を越えたり、然る會社は毫も反省の色を示すことなし、最早賦止するの秋にあらず、則ちこゝに一切の頭末を告白し、衷情を披瀝して、敢て滿天下の有志諸彦の冷靜なる批判と、熱烈なる同情とに訴へんことを、吾人豊福を好まんや、止むを得ざればなり。

吾人は去る一月九日、一同熟議の後、九名の委員を舉げ當社長に會見せしめ、左の五ヶ條の要求を提出せり。曰く、

- 一、八時間労働制度實施の事
  - 二、賃銀一個増額の事
  - 三、解雇手当支給の事
  - 四、退職手当支給の事
  - 五、二ヶ年以上勤続者に對して一ヶ月分日給支給、爾後一ヶ年を増す毎に一ヶ月分日給を加算する事
- 爾後一名の長階級を必要とする場合同職工間に於て三名を選出し右三名中より會社は一名を選任するものとす。但し長階級に對し全職工三分の二以上の不信任意思表示ありたる場合會社は直ちに之を免するものとす

以上

然るに會社は即時臨時休業を宣し、同時に社長園田武彦氏曰く、諸君の要求の正當なるを認むるも即答困難なるに依り、假に相當の時を與へよ、慎重無慮の上回答すべし、尙諸君は此の旨を一同に傳へ、期十日一般の意思を纏めて傳へられたしと、是に於て吾人は直に總會を開き左の如く回答せり。吾人は社長の誠意を諒とし、慎重無慮せらるる期間を待つべし。而して尙此のまゝ休業を繼續するや或は直に出勤從業せしむるかを質問せり。之に對して會社は鐵谷工務課長をして云はしめて曰く、諸君は條件全部を撤回して明日より出勤すべし、然らずんば會社は當分工場を閉鎖すべし、篤と考慮の上明日回答ありたしと。吾人は再度の總會を開き決議を携へて翌十一日會社を訪問し、要求撤回の旨を付言するや、且つ園田社長に職工一般の解雇を宣し、サヨナラと云ひ捨て、逃るが如くにして會見場を出で去れり。吾人は當初より常に謙讓の態度を以て折衝し來れるに對し會社は斯く暴慢なる威壓的態度を以て臨み、吾人の容易に屈せざるや不當なる工場閉鎖を斷行し、解雇を宣言するに至れるなり。

## 二、對戰状態に入る

是に於て乎、吾人は持久の策に出づるの外なきを思ひ、益々結束を固くし、各部署を定めて活動すると一は以て産業的自由の訓練に資し一は以て運動持久の資金調達のため、流寇豫防用マスクの製造を計劃し之を實行しつゝあり。然るに此の間會社は何等反省する所無きのみか、反つて種々なる陋策を弄び、時に中間者を以て切崩しを試み、或は誘惑恐喝を事とし、權謀術數至らざるなし。吾人如何に平和を愛するも雖も豈戦を辭せんや。吾人は覺悟せり、飽くまでも必勝を期して戦はん、否、男子其主義のために斃れて後已む、何の悔かこれあらんぞ。思ふに、吾人の戦は今後旬日又は數旬に亘るものあらん、然れども徒らに會社の威壓に屈して、吾人の『自由』を賣るものにあらず、微むらくは吾人薄資にして戦闘力充實せず、百萬の富を包擁せる會社と對立して、眞に難局に處するの嘆なき能はず、希くは諸彦、吾人の衷情を諒し、陸續來りて諸彦が援助の手を伸べ、吾人の志を遂げしめよ、これ豈一に吾人の爲めのみと言はんや、眞に是れ人道の善戰にして、産業立憲の制度を實現するの一端なりと信するものなり。謹ん白す。

友愛會東京鐵工組合大崎支部

園池鐵工所従業員一同

大正九年一月廿二日